

水稻病虫害防除対策（5・6月）

1 いもち病（葉いもち）

- (1) 令和4年の発生は平年並でしたが、無防除ほ場や常発地域など、一部で発生程度の高いほ場が確認されました。
- (2) 補植用置苗は葉いもちの伝染源になりやすいので、補植を終えたら速やかに撤去し、水田外に処分してください。
- (3) 葉いもち予防のために水面施用剤を施用する場合は、各薬剤の施用適期に遅れないよう注意してください。なお、平年の本田での葉いもち初発時期は7月上旬です。
- (4) BLASTAM（ブラスタム）は、気温や降雨等の気象条件からイネがいもち病に感染しやすい感染好適条件であったかどうかを判定し、葉いもちの発生を予測するシステムです。感染好適条件が広範囲かつ断続的に出現した場合、その7～10日後に葉いもちが発生するおそれがありますので、水田内に入って病斑が多数みられた場合には薬剤による防除を行ってください。なお、病虫害防除所ホームページ（URL: <http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/37200b/blastam-2023.html>）では6月から8月までBLASTAMによる感染好適条件の出現状況を提供していますので、防除の参考にしてください。
- (4) 薬剤防除の実施に当たっては、以下のことに注意してください。
- ア 耐性菌の出現を防ぐため、同じ系統の薬剤の連用はさけてください。特に、QoI剤（薬剤系統：C3）については県内でも耐性菌の発生が確認されていますので1作につき1回までの使用としてください。
- イ 水面施用剤を使用する場合は、湛水状態にして所定量を均一に施用後、7日間以上止水状態を保ち、落水や掛け流しは行わないでください。
- ウ コラトップジャンボPは、藻や浮草で拡散が阻害される場合は使用しないでください。
- エ アミスターエイトは、リンゴの一部品種に薬害を発生させるため、リンゴにかからないよう注意してください。
- オ ビームゾルは、野菜類の幼苗、ナシ、キクにかからないよう注意してください。

表1 葉いもちの防除薬剤（散布剤）

薬剤名	有効成分名	薬剤系統	使用時期 (収穫前日数)	使用濃度、10a 当たり使用量	本剤の使用 回数
アミスターエイト	アゾキシストロビン	C3	収穫14日前まで	1,000～1,500倍	3回以内
カスミン液剤	カスガマイシン	D3	穂揃期まで	1,000倍	2回以内
ノンプラス粉剤DL	トリシクラゾール	I1	収穫7日前まで	3～4kg	2回以内
	フェリムゾン	U14			
ノンプラスフロアブル	トリシクラゾール	I1	収穫7日前まで	1,000倍	2回以内
	フェリムゾン	U14			
ビームゾル	トリシクラゾール	I1	収穫7日前まで	1,000倍	3回以内
フジワン乳剤	イソプロチオラン	F2	収穫14日前まで	1,000倍	2回以内
ブラシン粉剤DL	フェリムゾン	U14	収穫7日前まで	3～4kg	2回以内
	フサライド	I1			
ブラシンフロアブル	フェリムゾン	U14	収穫7日前まで	1,000倍	2回以内
	フサライド	I1			

注) 液剤、乳剤、フロアブル剤は10a当たり140～150L散布する。

注) 使用回数はその剤の使用回数であり、使用する際には有効成分ごとの総使用回数を確認すること。

表2 葉いもちの防除薬剤（水面施用剤）

薬剤名	有効成分名	薬剤系統	使用時期 (収穫前日数)	10a 当たり 使用量	本剤の使用 回数
ルーチン粒剤	イソチアニル	P3	移植直後～葉いもち 初発3日前まで (収穫30日前まで)	1kg	2回以内
フジワシ粒剤	イソプロチオラン	F2	葉いもち初発10～ 7日前まで (収穫30日前まで)	3～5kg	2回以内
オリゼメート粒剤	プロベナゾール	P2	葉いもち初発10日前～ 初発時まで (収穫14日前まで)	3～4kg	2回以内
コラトップ粒剤5	ピロキロン	I1	葉いもち初発10日前～ 初発時まで	3～4kg	2回以内
コラトップ 1キロ粒剤12	ピロキロン	I1	葉いもち初発10日前～ 初発時まで	1～1.5kg	2回以内
コラトップジャンボP	ピロキロン	I1	葉いもち初発20日前～ 初発時まで	小包装(パック) 10～13個 (500～650g)	2回以内

注) 使用回数はその剤の使用回数であり、使用する際には有効成分ごとの総使用回数を確認すること。

表3 葉いもちの防除薬剤（無人航空機による散布）

薬剤名	有効成分名	薬剤系統	使用時期 (収穫前日数)	使用濃度、10a 当たり使用量	本剤の使用 回数
アミスターエイト	アゾキシストロビン	C3	収穫14日前まで	8倍 0.8L	3回以内
ビームゾル	トリシクラゾール	I1	収穫7日前まで	6～8倍 0.8L	3回以内
ビームバリダゾル	トリシクラゾール	I1	収穫14日前まで	8倍 0.8L	3回以内
	バリダマイシン	U18			
フジワシ乳剤	イソプロチオラン	F2	収穫14日前まで	8倍 0.8L	2回以内
ブラシンゾル	フェリムゾン	U14	収穫7日前まで	8倍 0.8L	2回以内
	フサライド	I1			
オリゼメート粒剤20	プロベナゾール	P2	収穫14日前まで	1kg	2回以内
コラトップ粒剤24	ピロキロン	I1	葉いもち初発10日前～ 初発時まで	0.5kg	2回以内
コラトップ 1キロ粒剤12	ピロキロン	I1	葉いもち初発10日前～ 初発時まで	1kg	2回以内

注) 使用回数はその剤の使用回数であり、使用する際には有効成分ごとの総使用回数を確認すること。

2 イネミズゾウムシ

- (1) 令和4年のイネミズゾウムシの発生は、全域で平年よりやや多くなりました。近年、発生が増加傾向にあるため、注意が必要です。
- (2) 気温が高い日が続くと成虫の本田への侵入時期が早まります。田植時期と侵入最盛期が近いと被害が大きくなりやすいため、注意してください。なお、有効積算温度から推定した侵入最盛期、防除適期はともに平年より早くなっています。
- (3) 移植後10日頃に100株当たり成虫が40頭以上のほ場では薬剤による防除を行ってください。特に直播栽培では出芽直後から被害を受けやすいため、注意してください。
- (4) 水面施用剤を使用する場合は、湛水状態にして所定量を均一に施用後、7日間以上止水状態を保ち、落水や掛け流しは行わないでください。
- (5) なげこみトレボンは5葉期以降に使用し、稲が小さいときは水深2～4cmのやや浅水、盛んに分けつを始めたなら水深5cm以上としてください。

表4 イネミズゾウムシの本田防除薬剤

薬剤名	有効成分名	薬剤系統	防除時期 (収穫前日数)	10a 当たり使用量	本剤の使用回数
トレボン粒剤	エトフェンプロックス	3A	5月下旬～6月上旬 (収穫21日前まで)	2～3kg	3回以内
なげこみトレボン	エトフェンプロックス	3A	5月下旬～6月上旬 (収穫21日前まで)	水溶性容器4～6個 (200～300ml)	3回以内

注) 使用回数はその剤の使用回数であり、使用する際には有効成分ごとの総使用回数を確認すること。

3 イネヒメハモグリバエ

- (1) 近年の発生状況は少なく推移していますが、田植後に低温が続く場合や深水管理、直播栽培のほ場では被害が発生しやすいため注意してください。
- (2) 発生が目立つ場合は初発時に本田防除を行ってください。水面施用剤を使用する場合は、湛水状態にして所定量を均一に施用後、7日間以上止水状態を保ち、落水や掛け流しは行わないでください。

表5 イネヒメハモグリバエの本田防除薬剤

薬剤名	有効成分名	薬剤系統	防除時期 (収穫前日数)	10a 当たり使用量	本剤の使用回数
トレボン粒剤	エトフェンプロックス	3A	5月中旬～6月上旬 (収穫21日前まで)	2～3kg	3回以内

注) 使用回数はその剤の使用回数であり、使用する際には有効成分ごとの総使用回数を確認すること。

4 イネドロオウムシ

- (1) 令和4年は会津、浜通りでは発生が確認されませんでした。中通りで発生量がやや多くなりました。また、感受性検定の結果、中通りの一部ではチアメトキサム剤に対する感受性低下が確認されています。
- (2) 有効積算温度から推定した成虫の本田への侵入盛期、防除適期である幼虫のふ化盛期はともに平年よりやや早くなっています。
- (3) 1株当たり3～4齢幼虫(ドロの大きさが4～5mm)が10頭以上のほ場では薬剤による防除を行ってください。水面施用剤を使用する場合は、湛水状態にして所定量を均一に施用後、7日間以上止水状態を保ち、落水や掛け流しは行わないでください。
- (5) なげこみトレボンは5葉期以降に使用し、稲が小さいときは水深2～4cmのやや浅水、盛んに分けつを始めたなら水深5cm以上としてください。

表6 イネドロオウムシの本田防除薬剤

薬剤名	有効成分名	薬剤系統	防除時期 (収穫前日数)	10a 当たり使用量	本剤の使用回数
スミチオン粉剤3DL	M E P	1B	6月上旬～6月中旬 (収穫21日前まで)	3～4kg	2回以内 (出穂前は1回)
なげこみトレボン	エトフェンプロックス	3A	6月上旬～6月中旬 (収穫21日前まで)	水溶性容器4～6個 (200～300ml)	3回以内

注) 使用回数はその剤の使用回数であり、使用する際には有効成分ごとの総使用回数を確認すること。

5 ニカメイチュウ（第1世代）

- (1) イネの刈り株や稈の中で幼虫の状態で越冬します。越冬した成虫は5月頃から飛来し葉身の中に産卵し、ふ化した幼虫が6月中旬頃から葉鞘に侵入します。被害を受けた葉鞘は褐変するので、例年被害が目立つほ場では防除を行ってください。
- (2) 薬剤を散布する場合は、越冬世代成虫の発蛾最盛期（福島市大笹生で例年5月6半旬）の10～15日後に株元によく付着するように散布してください。水面施用剤を使用する場合は、湛水状態にして所定量を均一に施用後、7日間以上止水状態を保ち、落水や掛け流しは行わないでください。

表7 ニカメイチュウ（第1世代）の本田防除薬剤

薬剤名	有効成分名	薬剤系統	防除時期 (収穫前日数)	10a 当たり使用量	本剤の使用回数
スミチオン乳剤	M E P	1 B	6月上旬～中旬 (収穫21日前まで)	1,000～2,000倍	2回以内
スミチオン粉剤3DL	M E P	1 B	6月上旬～中旬 (収穫21日前まで)	3～4kg	2回以内 (出穂前は1回)
パダン粒剤4	カルタップ	14	6月上旬～中旬 (収穫30日前まで)	3～4kg	6回以内

注) 乳剤は10a当たり140～150L散布する。

注) 使用回数はその剤の使用回数であり、使用する際には有効成分ごとの総使用回数を確認すること。

6 イナゴ類

- (1) 年1回の発生で、6月上旬からふ化幼虫が確認されます。若齢幼虫は主に畦畔雑草で生活し、生育が進むにつれて水田内に侵入をはじめ、7月下旬以降水田内への侵入が増加します。
- (2) 例年発生が多いほ場では、水田内への侵入が増加する前のふ化終期（6月中旬～7月上旬）に防除を行ってください。なお、この時期はふ化幼虫が畦畔近くにとどまっている場合が多いため、畦畔の付近を中心に薬剤を散布してください。水面施用剤を使用する場合は、湛水状態にして所定量を均一に施用後、7日間以上止水状態を保ち、落水や掛け流しは行わないでください。

表8 イナゴ類の本田防除薬剤

薬剤名	有効成分名	薬剤系統	防除時期 (収穫前日数)	10a 当たり使用量	本剤の使用回数
アルバリン粉剤DL スタークル粉剤DL	ジノテフラン	4 A	6月中旬～7月上旬 (収穫7日前まで)	3kg	3回以内
トレボン粒剤	エトフェンプロックス	3 A	6月中旬～7月上旬 (収穫21日前まで)	2～3kg	3回以内

注) 使用回数はその剤の使用回数であり、使用する際には有効成分ごとの総使用回数を確認すること。

※農薬の登録内容については慎重に校閲していますが、登録内容の変更は随時行われています。また、同じ農薬名でも農薬会社によって登録内容が異なることがありますので、農林水産省のホームページ (<https://pesticide.maff.go.jp/>) 等で最新の登録内容を確認してください。（記載中の登録内容は令和5年4月20日現在）